

# 事業評価票

<b>189</b>	<b>公共車両優先システム整備事業</b> (都市整備局都市基盤部／一般会計)	事業開始	平成 22 年度
		事業終期	平成 28 年度

**【局評価】**

<b>1 どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか</b>	
<p>○ 公共車両優先システム（PTPS）は、道路上に設置された光ビーコンを利用して、バス等の公共車両に搭載された車載機からの車両情報を識別し、そのバスが交差点を通過する際に、優先的な信号制御を行い、円滑な走行を確保するシステムである。</p> <p>○ 再拡張・国際化された羽田空港へのアクセス強化を図るため、羽田空港利用者のうち約2割が利用する空港直行バスの速達性向上を目的として、平成22年度に制度を創設し、事業者への補助を実施してきた。</p>	
<b>根拠法令等</b>	公共車両優先システム整備事業補助金交付要綱（東京都）

<b>2 どのように取り組み、どのような成果があったか</b>	
<p>○ 平成22年度より事業を開始し、光ビーコンを設置する警視庁と連携し、事業者が設置する車載器への補助を行ってきた。</p> <p>○ 27年度までに新宿地区をはじめ7地区においてPTPSが導入済である。これにより、主要駅やホテルと空港間において、平均で約10%の時間短縮効果が確認されている。</p> <p>○ なお、28年度は池袋及び渋谷地区を対象に、事業者が設置する車載器への補助を予定している。</p>	

**【財務局評価】**

<b>3 どのような課題や問題点があったか</b>	
<p>○ 羽田空港の機能強化・国際化に伴い、より利便性の高い公共交通手段を確保していくことが急務であり、主要な空港アクセス手段の一つである空港直行バスの利便性向上が求められていた。</p> <p>○ 東京2020大会の開催を見据えつつ、これまで道路整備状況等により導入できなかった地域や、一般バス路線への支援についても検討する必要がある。</p>	

<b>4 局として、事業をどうしていきたいか</b>					
拡大・充実	見直し・再構築	<b>移管・終了</b>	その他		
<p>○ 平成28年度に補助を行う、池袋及び渋谷地区への導入により、所期の目的である空港アクセス路線への導入は一定の成果を上げた。</p> <p>○ これまでは、空港アクセス路線を対象に補助を行ってきたが、一般路線においても大いに効果を発揮することが見込まれることから、今後のあり方については引き続き検討していく。</p>					
<b>歳入</b>	27年度決算額	— 千円	<b>歳出</b>	27年度決算額	240 千円
	28年度予算額	— 千円		28年度予算額	600 千円
	29年度見積額	— 千円		29年度見積額	— 千円

<b>5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか</b>	
<p>○ 本事業の実施により、空港アクセス路線における公共車両優先システム（PTPS）の導入が進み、速達性が向上するなど、空港アクセスの利便性向上が図られた。</p>	

<b>6 29年度予算で、どのように対応したか</b>				
拡大・充実	見直し・再構築	<b>移管・終了</b>	その他	
<p>○ 本事業は一定の成果を上げたことから、局案のとおり事業終了とする。</p>				
<b>歳入</b>	29年度予算額	— 千円		
<b>歳出</b>	29年度予算額	— 千円		